

# 登山月報



昆布岳から新雪の羊蹄山を望む



スポーツライミング東京五輪追加種目正式決定	1
平成 28 年度全国山岳遭難対策協議会開催される	3
平成 28 年度遭難対策委員研修会兼総会を開催	4
日本山岳 S A R 研究機構総会報告	5
登山倫理シンポジウムを共同で開催	6
I S M F 2016 年総会参加報告	7
I O C 加盟の承認	7
第 93 回 Mountain World	8
<b>新連載</b> 「山の日」制定記念一ふるさとの山に登ろうー	9
「走在台湾屋背上一2016 国際登山交流」に招待されて	10
平成 28 年度前期海外登山奨励金選考結果	12
大阪府山岳連盟 創立 70 周年・一般社団法人設立記念式典	12
J M A、寄贈図書、編集後記	13

# スポーツクライミング東京五輪追加種目正式決定

8月3日(日本時間8月4日午前5時)、ブラジルのリオデジャネイロで開催された第129回I O C総会で、東京2020オリンピックの追加競技種目に提案されていたスポーツクライミング、野球・ソフトボール、空手、スケートボード、サーフィンの5競技18種目(選手総数474人)が一括承認された。

今回の選定に至る経緯は、以下の通りである。

2014年12月にモナコで開催されたI O C臨時総会で、中長期改革「オリンピックアジェンダ2020」を満場一致で採択。その中で五輪開催都市が複数競技種目を提案することが認められた。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会では、翌年5月、33の非五輪競技団体に応募用紙を発送し、同年6月、応募のあった26競技から8競技に候補が絞られた。そして8月に国際スポーツクライミング連盟(I F S C)と日山協は組織委員会にプレゼンテーションを行い、9月28日に組織委員会は、前記5競技18種目を1パッケージとしてI O Cに提案することを発表した。I O Cは今年6月の理事会でこの提案を承認し、今回の総会決議となった。

今回正式決定されたスポーツクライミング競技は、メダルの数(種目)は、男子・女子各1の計2種目。選手数は、男子・女子各20人の計40人。競技の内容は、リード、ボルダリング、スピードの3種目複合。順位は3つの合計ポイントで確定すると思われる。詳しい競技フォーマット等は、未だI F S Cから提示されていない。

I O C総会では、追加競技の開催会場についても提案され、スポーツクライミングの開催候補地は、お台場の江東区青海地区とされた。最終決定は、12月のI

O C理事会承認となる。

I O C総会で全会一致の承認を見守ったI F S Cのマルコ・スコラリス会長は、「スポーツクライミングが東京2020オリンピックに参加できることを大変うれしく思います。オリンピックは長きに亘る私たちの夢であり、これまでの努力が報われました。スポーツクライミングに素晴らしい機会を与えて下さったI O Cに感謝致します。」と語った。

また、スコラリス会長は、「私たちはこの素晴らしい登攀の最後のホールドにたどり着きましたが、またさらなる壁が私たちを待ち受けています。私たちのチームはスポーツクライミングをオリンピックに相応しいものに準備すべく、I O Cと共にこの4年間努力を続けて参ります。」と締めくくった。

日山協では、この正式発表を受けて8月4日10時から岸記念体育会館のスポーツマンクラブで記者会見を開催。会場には29社61名の報道陣が取材された。

会見には、選手会長の杉本怜、代表選手の藤井快、野中生萌の各選手が出席し、報道陣からオリンピックにかける抱負などの質問が相次いだ。

会見席上、八木原罔明会長は、「東京2020オリンピックの追加競技種目として決定されましたことは、この上もない喜びであり、大変光栄なことであります。これは、ここ数年のスポーツクライミングの途方もない隆盛が認められたことと思っております。今後一層、スポーツクライミングの魅力を多くの国民の皆様にお伝えし、理解を深めて頂けるよう尽力してまいります。そして、メダル獲得に向けて協会を挙げて選手強化や環境整備に取り組んで参ります。」と挨拶。

(記 尾形好雄)



## 平成28年度全国山岳遭難対策協議会開催される

平成28年度全国山岳遭難対策協議会が7月8日(金)に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、例年通り、全国から警察、消防、山岳関係者等約250名が参加した。

主催者を代表してスポーツ庁木村哲也審議官の挨拶のあと、日程に沿って進められた。

報告1は、「平成27年中における山岳遭難の概況」が警察庁の竹村史嗣地域課長補佐より報告された。平成27年度の発生件数は2,508件(前年対比+215件)、遭難者数は3,043人(前年対比+249人)、死者・行方不明者335人(前年対比+24)と、いずれも昭和36年以降で最多となった。60歳以上の中高年者の発生状況は遭難者数で全体の46.0%、死者・不明者は57.6%と傾向通り高い比率で、様態別では道迷い1,202人(39.5%)、滑落501人(16.5%)、転倒467人(15.3%)となっている。発生件数は増加しているが無事救出も1,557人(51.2%、前年対比+115人)と増加している点が特徴である。

報告2は、「山岳救助活動の高度化等について」と題して消防庁の新村満弘国民保護・防災部参事官補佐が報告された。御嶽山噴火災害を踏まえた山岳救助活動の高度化等を中心に報告がなされた。

講演1は、「山岳救助活動と医療の連携について」と題して国際山岳医の大城和恵氏が、山岳救助活動への医療のかかわりについて話された。遭難現場に医療を持ち込むことが必ずしも救命率の向上に繋がるわけではなく、現場で医療に時間をとるより早く医療施設に運んだ方が良い場合もある。その判断を間違えないようにする必要がある。登山そのものが昔の登山と変わってきているので、遭難事故を減らすには自治体と登山者が一緒にルールを築く必要があるという時宜を得た話であった。

講演2は、「長野県登山安全条例の目指すもの」と題して長野県観光部山岳高原課の井原聖氏が報告された。長野県登山条例が登山者に登山届の責務を負わせるだけでなく行政や関係団体の役割を明確にし、登山道のグレーディングと登山を安全に楽しむためのガイドラインを示すなど行政と登山者の新しいルールとマナーを築き上げ遭難事故を減らす長野県の取り組みを話された。続いて「山岳グレーディングと一般登山者の遭難対策」と題したパネルディスカッションが行われた。パネリストは国際山岳医の大城和恵氏、長野県山岳総合セ



ンター杉田浩康氏、警察庁竹村史嗣氏、消防庁新村満弘氏。

モデレーターは国立登山研修所アドバイザーの渡邊雄二氏。山岳グレーディングで遭難事故は減らせるかというテーマで議論された。グレーディングだけでは遭難事故は減らせない。いわば長野モデルのような登山倫理が全国に展開される必要がある。質問も相次ぎ関心の高さが窺えた。

会場では専門的なレスキュー用具のほかさまざまな登山用具や関連機器の展示も行われたが、長野で試みられているコンパス、ヤマレコの活用のように展示された位置情報発信機、探知機などがうまく組み込まれ、これらの情報をいかに減遭難に活用していくかが登山界の課題であることを感じた。

最後に「山岳遭難事故防止のために」というアピールを採択し、八木原日山協会長の挨拶で閉会した。

(遭難対策委員長 西内 博)

### (提言) 登山者は山岳遭難事故防止のために次のことに努める

- 登山の第一歩は、目的とする山をよく理解することからはじまります。地図を基本にガイドブックや現地等から事前に山岳情報を調べること。
- 登山計画書を作成して、パーティー全員がその山をよく理解するとともに、体力と経験に応じた無理のない計画であるかよく検討する。
- 登山計画書を家族や職場に知らせるとともに、登山届の提出が義務化されている山域もあるので、各都道府県の提出先や登山口の登山届ポスト等に必ず提出すること。
- 単独登山はやめて仲間と登り、ツェルトや救急用品、非常食を必ず携行して、ゆとりある行動を心がけて、

安全に登山を行うこと。

- 山の事故は自己責任であることをよく考えて、山岳保険には必ず加入すること。
- 危急時に確実に連絡を取れる手段を確保するために、無線機、携帯電話等の通信機器を持参して登山を行うこと。
- 登山に出発する前に目的とする山域の最新の気象情報・火山情報等を入手して、現地の状況を把握すること。
- 登山中は常にパーティー全員の体調や疲労に注意を払い、コースの状況・気象条件等に応じて下山するなどの冷静な判断を行い、山岳遭難事故を絶対に起こさない心構えで行動すること。

### (提言) 関係者は山岳遭難事故防止に向けて次のことに努める

- 登山計画書の提出を奨励し、計画的で安全な登山の普及に努める。
- 登山道、道標、トイレなどの整備とその適切な管理に努める。
- 今後設置する道標及び案内標示の様式、表記方法等について、可能な限り統一に努める。
- 詳細な山岳情報と気象情報の提供に努める。
- 中高年登山者やツアー登山参加者の安全確保に努める。

### 平成28年度遭難対策委員研修会兼総会を開催

遭難対策委員会の平成28年度の研修会と総会が埼玉岳連の協力で平成28年6月25日から26日にかけて埼玉県県民活動総合センターで開催された。25日は研修会で全体進行は石田常任委員が行った。最初に元長野県山岳高原課の原一樹さんから「山のグレーディングについて」の講演があった。山のグレーディングは長野県が提唱し、山梨、新潟、岐阜に展開されている。この制定の中心となった原さんに制定の経緯を話していただいた。現在ではヤマレコとも連携しピッチグレードの地形情報の提供も開始されているとのことである。講演後、3班に分かれ、「山のグレーディングについて」というテーマで議論した。あるグループの討議内容：山のグレーディングの評価は2つのグループに分かれた。(1)積極的に受け入れようとするグループ意見(・全国統一比較が可能となり、様々な登山道を知るうえで、良い目安となる。・事故防止の観点からグレーディングは優れている。・長崎でも独自グレーディングを検討中・山は自己

責任、そのためにグレーディングを生かす・学校教育にグレーディングが生かされる・性善説に立つことによって生かされる)(2)まだ、十分に検討されていないと考えるグループ意見(・山のグレーディングを全国統一的にまとめるのは難しい・より地域性に配慮したグレーディングが望まれる・道迷いをグレーディングの評価項目とするのは無理がある・全国を目指すなら、グレーディングの評価員の能力を統一すべき・小さな岳連では評価員の確保が難しい・グレーディングされた登山道で事故が発生した場合、その責任の所在はどこにあるのか・全山遭での検討時間短い・グレーディングの善し悪しは、使う側に問題がある・教育に使うには先生のレベルが低すぎる・性悪説に立つことによって、問題が多い)などの意見がでた。登山部としてはグレーディング単体では事故は減らせない。長野が登山条例とセットで進めているように登山者、行政、山岳団体などの責務と役割の共通認識のもとにルールとマナーを守り、登山者に必要な教育を提供していくことが必要と考えています。研修会終了後、懇親会が行われた。

総会は26日に行われ石田常任委員が全体進行を行った。亀山日本山岳協会副会長の挨拶で開会し、西内委員長から平成27年度事業報告、平成28年度事業計画の説明があった。引き続き青山副委員長から山岳事故調査報告、登山倫理シンポジウム報告、UIAA登山委員会報告などが行われた。また、清水委員から指導・遭対共同で進めている夏山リーダー講習および資格の進行状況について報告があり、町田委員から指導・遭対合同研修会について報告があった。

非常に盛りだくさんなテーマで十分討議しきれなかった部分もあるが、グレーディングが制定され、登山条例が制定されている状況下において、現在進めている一般登山者の教育、登山倫理の検討、位置情報の発信と捜索などは時代が求めているものであることを確認できたとても有意義な研修会、総会となった。



原一樹氏の講演

【総会出席者】 亀山健太郎(副会長)、西内博、町田幸男、青山千彰、永井伸幸、渡部逸郎、瀬藤武、蛭田伸一、松本善行、林満、松本光顕、中丸忠男、清水学、下越田功、近藤孝久、大沼正博、森裕紀子、石田英行、一本松文夫、(以上常任委員) 盛合敏男(岩手) 神垣聖子(群馬) 須賀邦雄(千葉) 中澤弘雄(山梨) 村田健治(長野)、永井武司(石川) 高橋優(愛知) 小古真也(三重) 廣瀬修二(岐阜) 竹村喜一郎(滋賀) 稲葉博則(大阪) 神庭進(鳥取) 江本正彦(山口) 平野晋一(香川) 多田昭弘(徳島) 戸高和成(福岡) 渡邊利博(長崎) 佐藤敏雄(熊本) 大城満春(沖縄)(以上委員) 石倉昭一(埼玉岳連)

(遭難対策委員長 西内 博)

## 日本山岳SAR研究機構総会報告

第9回日本山岳SAR研究機構(通称SAR)総会が平成28年7月10日(日)、神戸登山研修所で開催された。

ここでは、平成27年度事業報告と、平成28年度事業計画について報告する。

平成27年度事業報告での、主な内容は、登山倫理シンポジウムの開催、UIAA登山委員会、警察事故統計の分析、山岳3団体による事故データベースの構築と運用法の検討等、他5点であった。

### (1)登山倫理シンポジウム開催

当シンポは日本山岳SAR研究機構が主催し、公益社団法人日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟の共催、日本山岳文化学会の協賛で開催された。日時は2016年5月22日、場所は、国立オリンピック青少年センターの国際会議棟のミーティングホールであった。

当シンポの目的は、まず、UIAAの「登山倫理宣言」で扱われる「Mountain Ethics」の翻訳から生まれてきた「登山倫理」と呼ばれる用語ならびにその考え方の普及にあった。更に現在直面する様々な登山倫理問題について討議し、我が国にみあった倫理規範作りの下地を作ることになった。

シンポの内容は4部門、8人により発表があった。なお、1人はUIAAの登山倫理WGのPhil Wicken氏である。[1] 登山倫理の基礎(登山者のモラルならびに、リーダーのあり方) [2] アクセスならびに登山道関連問題(入山料、登山届け、入山権利、登山道のグレイディング)、 [3] 自然保護(入山域の制限やオーバーユース、トイレ問題) [4] 登山技術(残置支点、酸素使用)、その他である。残置支点については、今日的な話題だけに、活発な議論がなされた。

### (2)警察庁の事故統計分析結果終に

事故統計では、右肩上がりの遭難者総数が終に3046



人になった事が注目されたが、世代別事故分布曲線において、終に、「60世代」と「70歳以上の世代」が等しくなった事が明らかとなった。早ければ、来年から逆転して「70歳以上の世代」がピークとなると予想され、世界に類を見ないパターンで、高齢登山者時代を如実に示すものである。既に、パターンを主に形成する登山団塊世代(S15年-30年生まれ)の先頭部が後期高齢者(75歳以上)に達しており、今後5年程度で、山岳遭難の傾向が大きく変わる過渡期に入ったと予測している。

### (3)山岳3団体による事故データベースの構築と運用法検討

日山協、労山、jROの3団体による事故データは新たに247人が登録され、合計2791人となった。事故データベースは、主な質問項目144に対し、535の関連因子によって構成され、EXCELで190万セルの情報となっている。

そこで、遭難対策関係者、研究者、安全登山指導者などを対象に、特定の事故要因をキーワード(KW)として、関連した事故を検索・抽出し利用者へ提供するシステム「事故情報要覧2791」を完成させた。要覧は13の大項目に分けられたデータ項目表に基づき、必要なKWを入力することで、個々のKW関連事故者の事故情報を取り出すものである。

既に、3岳連(大阪、兵庫、群馬)には、県内で起こった事故、ならびに県外で発生した該当県人による事故について、それぞれの岳連で分析を始めている。また、「懸垂下降」、「雪崩」など、上記KWによる分析も始まっている。

個人情報に配慮し、情報提供は上記関係者に限られる。遭難対策活動、安全登山指導は事故データベースからの解析結果を担保として実施されるべきであり、今回のシステム提供により遭対活動への実戦配備についてと考える。

### (4)その他事項

①兵庫県山の遭難対策協議会における「世界の登山

倫理を考える」講演活動報告②KYT(危険予知トレーニング)対応を目指した一般登山者への啓発資料作り③GPSで発生するマルチパスの検証実験報告④簡易カメラを用いた登山時の集団行動測定⑤「第三者事故調査法」と「岩登り初心者に制動確保技術を教える問題」に関するWGの活動状況報告などがあつた。

次に、平成28年度事業計画については、登山倫理委員会の発足と登山倫理シンポジウムの開催、UIAA活動登山委員会関連業務、山岳遭難事故調査、集団行動の計測実験、一般登山者への啓発授業への取り組み、KYTの適用、ドローンを用いた道迷い遭難者の捜索法検討、「第三者事故調査法」の開発、「岩登り初心者に制動確保技術を教える問題」に関するWG活動などを提案し、承認された。主な計画について紹介する。

### (1)登山倫理委員会の発足

登山倫理シンポジウム開催により、今後の活動方針が明確となった。まず、登山倫理を体系化し、我国に見あつた登山倫理規範を作成するため、登山倫理委員会を立ち上げることにした。既に、SARから内諾を得た構成メンバーは、中島、内藤、西内、川嶋、溝手、黒川、加藤、古賀、青山の9名とする。さらに、UIAAの倫理WGから顧問数名、国内外から国立歴史民族博物館の柴崎氏、他数名とした。なお、中島氏を委員長とし、他のメンバー役割は後日決定する。活動は、委員が全国に分散するためメール会議とする。

委員会活動が順調に進めば、第2回目の登山倫理シンポジウムを平成29年に開催する。

### (2)山岳3団体による事故データベースのUIAAフォーマット一部修正

基本的には、「事故情報閲覧」が軌道にのってきたので、検索機能を低下させない範囲で、UIAAフォーマットに適用可能なように項目修正、追加を行う。さらに、岳連における遭対活動、ならびに、全国遭難対策関係者や安全登山指導者へ情報提供するシステムの強化を行っていく。

### (3)UIAAフォーマットによる国際事故調査

UIAAフォーマットへのデータ変換プログラムの開発ならびに、ウェブデータ入力システムの開発を行う。

### (4)一般登山者への啓発授業への取り組み

#### KYTの適用

現在800万人と予想される登山者を対象に啓発することは非常に難しい。「登山事故」＝「雪山、崖からの滑落」と思い浮かべている登山者のイメージを変えるには、ベテランの持つ、安全登山のためのノウハウを視覚的に伝えるのが最も効果的と考え、遭対活動の一環として、KYTを使用することにした。この際、集団行動の計測手法(ウェアブルカメラ、GPS、ドローン、HITOCOCOなど)を総合的に活用することにする。

### (5)その他

大幅に遅れている、「第三者事故調査法」の委員会活動、「岩登り初心者に制動確保技術を教える問題」に関するWG活動を活性化させる。

(文責 青山千彰)

## 登山倫理シンポジウムを共同で開催

5月22日(日)東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで登山倫理シンポジウムが開催された。主催は、日本山岳サーチアンドレスキュー研究機構で(公社)日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟などが共催。登山界でほとんど議論されていない登山倫理をテーマに8人が4つのテーマに分かれ講演した。

第1部では、登山倫理の基礎と題し、主催者である研究機構代表の青山千彰教授がUIAAの登山委員長やUIAAの登山倫理についての考え方を紹介された。少し、アルパインクライミングに偏った内容であるが、ベースとなる内容であった。

第2部はアクセスならびに登山道関連と題し、公益財団法人日本交通公社の中島泰さんが国内における入山料徴収問題―富士山を例に―について、弁護士の溝手康史さんが登山道の管理の問題について、公益社団法人日本山岳協会の西内博さんが山のグレーディングについて話された。これらは一般登山者が対象の話で、現状は行政による管理と利用者のモラルの調和がなされる過程であり、登山倫理の確立が必要ながよくわかつ



雄大な自然あふれる常春の楽園で、登山とハイキングを満喫

**スペイン最高峰テイデ山(3,718m)登頂と  
魅惑のカナリア諸島 9日間**

発着地

東京・大阪

出発日

10/27(木)

旅行代金

¥420,000

※燃油サーチャージ(7月30日現在)は、不要となっておりますが、今後変更になる場合は、ご旅行代金ご請求の際にご案内いたします。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号 / 日本旅行業協会正会員 / ボンド保証会員



**ALPINE ツア サービス 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

た。

第3部は自然保護と題し、国立歴史民俗博物館の芝崎茂光さんが古くて新しい問題としての屋久島の山岳利用について、NPO法人山のECHOの上幸雄さんが山岳トイレ問題と「登山倫理」について話された。どちらもオーバーユースが問題であるが、観光と登山という問題が絡み、入山者の管理、対策の推進など長期的な視点にたった取り組みをまとめる必要性を痛感した。

第4部は登山技術と題し、日本勤労者山岳連盟の川嶋高志さんが岩場での支点残置について、関西岩場環境整備ネットの西村良信さんが残置支点の改修(リポルト)と登山倫理について話された。クライミングの楽しさを取り戻す不要な残置支点の撤去や、安全性を増すリポルトであるが、岩場が多様な目的で使われており、地権者の意向もあるので、独善的に進めず関係者がよく話し合っただけで進める必要性を感じた。

登山倫理にはじめて取り組んだシンポジウムであるため、参加者の共通認識も不十分で積極的討議にまではいたらなかった。最近、ニュースで岩場の残置支点が景観や岩場の破壊として問題化しつつある。シンポジウム終了後もアルパインクライミングと一般登山の登山倫理の違いや、登山倫理は一般倫理に包含されるかについての議論がかわされており、今後も継続して実施し、一般の方にも受容可能な登山倫理の確立がのぞまれる  
(記 遭難対策委員長 西内 博)

## ISMF 2016年総会参加報告

6月18日ポルトガルの南端、大西洋に面したリゾート地アルプフェイラで山岳スキー競技国際連盟(ISMF)の総会が開かれた。

はじめに議長から、出席15ヶ国委任状提出6ヶ国(加盟31ヶ国)で総会成立との報告から総会が始まった。今回はトルコが加盟し、初めての総会で参加者の歓迎を受けた。

会長報告では、オリンピック関係が大きな部分を占めた。まず、今年8月のIOC総会でISMFが加盟完全承認となるの見通しが明らかになった。IOC総会でのプレゼン用の5分ほどのビデオが紹介された。2018年韓国平昌での次期冬季オリンピックでのデモンストラーション競技実施に向け会長が韓国に出向き現地組織委員会と交渉したが、組織委員会側は会場に余裕がないことや予算を理由に実施は断られた。今後は、2022年北京冬季大会での実現可能性を探ることになった。それに向けてまず2018年頃に中国でワールドカップと2020年のスイス・ローザンヌでのユースオリンピック



冬季大会での実施を目指すという。

国際公認審判については昨シーズン、中国で審判養成コースが開催されたがそこでの反省から、これまでの審判に加え大陸別審判制度を設けることとなった。これは、これまでの国際審判に必須な英語知識を持たなくても審判になれる道を開くためのものであるがこれは、アジア諸国を視野に入れての改正である。ISMFではアジアでの競技普及に強い関心を示しており、中国登山協会CMAに2018年シーズンに中国ワールドカップの開催を働きかけている。ロシアもカムチャッカで大会を継続開催しておりアジア・サーキットに入れてほしいと訴えた。トルコもワールドカップレースの開催を約束した。日本も競技普及を、と声をかけられたが、日山協としては次シーズンには連盟公認レースを再び実施したい、と答えるにとどめた。

昨シーズンは天候不良でワールドカップ戦のいずれもが実施に苦労したとのことである。

世界選手権は2017年2月23日から3月2日までの日程でイタリア北部のトランスカバロで開催されることが明らかになった。

これまで伝統のある長距離レースもISMFのワールドカップシリーズ(WC)に入っていたが、来期以降はWCとは独立したレースとすることとなった。ただし、競技順位につくポイントはWC同様にポイントが付きには来季から導入する総合ランキング制度に反映される。因みに来シーズン予定されている長距離レース(LGC)は、ピエラメンタ 3月8日～10日、Pierra Menta(8-10 March)、アダメロレース4月1日～2日 Adamello ski race(1-2 April) メッエラマ 4月22日～23日 Mezzalama(22-23 April)である。

(記 笹生博夫)

### IOC加盟の承認

ブラジルのリオデジャネイロで開催された第129回IOC総会において、6月2日、ISMFのIOC加盟が承認された。

## 第93回 Mountain World

### アンナプルナの勇者 相次いで逝く

池田常道

1984年秋、アンナプルナ(8091m)の東稜と南壁で目覚ましい登攀が行われた。スイスのエアハルト・ロレタンとノルベルト・ヨースが東稜から主峰を越えて北面へと縦走し、スペイン(カタルニア)のニル・ボイガスとエンリク・ルカスが南壁をアルパインスタイルで登ったのである。32年前にこれらの歴史的登攀に成功したヨースとボイガスはこの6月と7月、相次いでこの世を去った。

\*

アンナプルナのバリエーション探索は1965年春、ガングプルナ(7455m)に登った西ドイツ隊(ギュンター・ハウザー隊長)に始まる。一行はその足で、63年に千葉県岳連隊(島澄夫隊長)が初登頂していたグレイシャー・ドーム(タルケ・カン、7193m)にも立ち、東稜の途中にあるロック・ノワール(カンサール・カン、7485m)の稜線を偵察した。西ドイツでは東稜への挑戦が翌年に予定されていたからだったが、折あしくネパール政府の登山禁止令に引っかかって、遠征の実施は69年春まで延期された。ルートヴィヒ・グライスル隊長の率いる本隊はロック・ノワールに初登頂し、その手前の7250m地点にC6を設けたものの、アンナプルナに通じる稜線に踏み出す余力はなかった。イギリス隊によって南壁が登られる1年前のことだった。

81年春のスウェーデン隊(トミー・サンドベリ隊長)は、西ドイツ隊と同じ地点に置いたC6からさらに足を延ばした。ロック・ノワールから3km先まで進んでアンナプルナI峰に向けて登りが始まる7480mに達したのである。このときはロック・ノワールの登山許可を持っていなかったため、ラルス・クロンルンドとステン・リンドブラッドは頂上の下5mのところをトラバースしてC7を作った。

東稜を完登したのは84年秋のスイス隊(フランク・チルキ隊長)だった。10月6日にロック・ノワールを越え、7500m地点に雪洞を掘ってC4とした。降雪のため18日まで行動を控えた後、エアハルト・ロレタンとノルベルト・ヨースが23日に頂上を攻撃。東峰を越えて中央峰とのコルでビバークし、24日に登頂した。2人はそのまま北面へと下降し、ビバーク2回を重ね

てBCに下りた。彼らの状況がつかめない本隊は11月2日にBCを撤収してカトマンズに戻り、そこで初めて2人の無事を知ったのだった。ロレタンはこれが6座目の8000m峰で、その後着実に登り続け、95年のカンチェンジュンガで14座完登を果たした。メスナー、ククチカに続く3人目の偉業だったが、2011年にグロスグリェンホルンをガイド中に転落死してしまった。

一方、ヨースはアンナプルナが3座目。96年までに10座に登ったが、本業のガイドに専心していたこともあって2006年によく13座目のカンチェンジュンガを手に入れた。残るエヴェレストには都合5回にわたって無酸素で挑んだが、ついに登頂は成らなかった。ロレタンの時代に比べると格段に普及した公募隊に入って登る機会はいくらもあったろうが、それを潔しとはしなかった。ヨースが亡くなったのはこの7月10日、ロレタン同様ガイド登山中の事故だった。2人のイタリア人を伴ってピッツ・ベルニナのピアンコグラートを登攀後、東稜を下降中にクライアントの1人が滑落、全員が引き込まれて160m落ち。クライアントは2人とも重傷を負って救出されたが、ヨースのみが助からなかった。1960年生まれの55歳だった。

\*

アンナプルナ南壁では、1970年春のイギリス隊(クリス・ボニントン隊長)による初登攀(左バットレス)を皮切りに、81年春にポーランド隊(リシャルド・シャフィルスキ隊長)による右バットレス(ザコパネ・ルート)、同年秋のイエティ同人隊(吉野寛隊長)による中央バットレスが相次いで登られたが、いずれも固定ロープを駆使した戦法で行われていた。

この南壁をアルパインスタイルで登ろうと考えたのは82年のアレックス・マッキンタイア(イギリス)だった。2年前にダウラギリ東壁を登り、前年はマカルー西壁を試みていた彼は、ルネ・ギリニとザコパネ・ルートの右手に断続するランペを7150mまで登った。しかし、純粋主義者マッキンタイアの極端に切り詰めた装備では途中のロックバンドを突破できず、引き返す途中で落石に打たれて亡くなった。

その遺志を継いだのがカタルニアのニル・ボイガスとエンリク・ルカスだった。84年秋、マッキンタイアの挑戦を参考に、より多めの登攀具を携えた2人はロックバンドを突破し、6日間で中央峰頂上に達した。問題のロックバンドは、落石を避けるため夜間登攀で突破している。ボイガスはのち極地探検に転じたが、去る6月に58歳の生涯を閉じたと聞く。

# 「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

北海道の知られざる山／北海道山岳連盟

ご存じのように北海道は広く、山の数も数えきれません。この特集の内容である「子供に登ってもらいたい山」、「遺産として残したい山」も数限りなくあり、2つや3つに絞ることはできません。

そこで、昨年北海道山岳連盟が90余りの加盟団体に呼び掛けて実施した「ふるさとの山」の日事業をご紹介します。

内容は加盟各山岳会が「ふるさとの山」をそれぞれ選び、一般登山者にも呼び掛けて、雪の降る前の10月4日前後の適当な日を選んで登山を実施するというものでした。結果として28の加盟山岳会が賛同し、会員以外の一般登山者355名を含め668名が「ふるさとの山」登山に参加しました。

登った山は全国的に名の知られた十勝岳、雄阿寒岳、ニセコ連峰、樽前山などもありましたが、函館郊外の山、登別温泉熊牧場裏の四方嶺、支笏湖畔のイチャンコッペ山、然別湖畔の白雲山・天望山、日本一寒い陸別町の奥の北稜岳など、ほとんど知られていない山が多数ありました。標高も400mから2,000mまで、高い山低い山様々でした。その中から比較的交通の便もよく親しみやすい山をご紹介します。

道高体連登山部顧問OBでつくるえぞ山道会の登った昆布岳は、標高1,045mで羊蹄山の南西にある山です。ニセコ・羊蹄・洞爺を巡る国道のどこからも眺められるイルカの背ビレの形をした独立峰です。この山は特にえぞ富士羊蹄山とニセコ連峰を真正面に眺める最高の展望台といえます。

釧路山遊会の登った剣山は、帯広の南、日高山脈の北端にある1,205mの山で、北海道には数少ない宗教色の濃い山です。登山口の剣山神社（四国剣神社の分霊）から3時間余りで登れる山頂部は険しい岩場で、



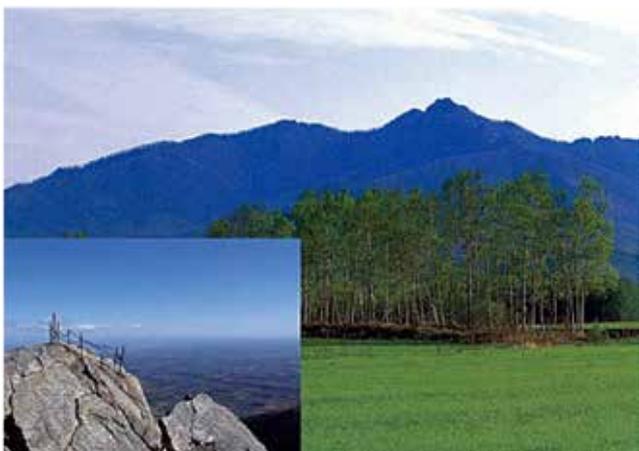
昆布岳から新雪の羊蹄山を望む

鉄製の剣が天を突くスリル満点の山です。眼下に広大な十勝平野が広がり、その向こうには北海道の背骨をなす山々が眺められます。

市民を募って恵庭山岳会が登ったイチャンコッペ山（アイヌ語；意味不明）は、支笏湖の西の畔に立つ829mの山です。支笏湖を取り巻く樽前山や岳、恵庭岳の火山群が群青色の湖面に映えて、神秘的な景色に感動します。

同じく市民100名と室蘭山岳連盟が登った室蘭岳は、別名鷲別岳といい、噴火湾の東を画する911mの山です。絵鞆半島に抱かれた室蘭を眼下に、海を隔てて名峰駒ヶ岳を望める美しい景色の山です。2時間足らずで登れる山として、冬には毎年数百人が参加する室蘭岳スキー登山会が開かれています。この山には室蘭岳連とは別に、苫小牧の王子製紙山岳部も登りました。

その他珍しい山としては、函館の二股岳826mには函館マウンテン倶楽部、中山峠の傍の草山918mには小樽野外サークル、狩勝峠南のオダッシュ山1,098mには新得山岳会、滝川市の西南西にある神居尻山947mには岩見沢こぶし山岳会などが登りました。



剣山近景と頂上の岩場

## 祝日「山の日」記念グッズ販売

### 「山の日」記念切手

[https://www.post.japanpost.jp/kitte\\_hagaki/stamp/tokusyu/2016/h280810\\_t.html](https://www.post.japanpost.jp/kitte_hagaki/stamp/tokusyu/2016/h280810_t.html)

### 「山の日」貨幣セット

[http://www.mint.go.jp/buy/coinset-online-sale/hanbai\\_h28\\_yamanohi.html](http://www.mint.go.jp/buy/coinset-online-sale/hanbai_h28_yamanohi.html)

### 「山の日」の歌

<http://columbia.jp/artist-info/katotokiko/>

<http://columbia.jp/artist-info/hashiri/>

<http://crowntokuma-shop.com/prducts/detail/CTM000095K>

## 「走在台湾屋背上—2016國際登山交流」に招待されて

1926年創立の台湾山岳会(中華民國山岳協會の前身)は90周年の今年2016年4月10～19日に國際登山交流を企画。友好關係の日本山岳協會も招待を受け、ホームページで参加者を募り、審査の上で7名の日本人登山者を派遣した。

登山は中央山脈北三段と南二段の2コースで、南一段は3000m級の山3座を6日間で、南二段は3642mの大水窟山を最高に3000m級9座を8日間で縦走するもの。香港、モンゴル、韓国の12名は北三段の半分、日本人7人と香港4人、シンガポール1人の12名はより困難な南二段全部である。10日は台北で説明会と歓迎会。翌11日、ガイド2人とポーター兼コック3人を帯同、台北から特急列車で玉里まで行き、迎えの車で台湾南部横断公路途上の標高2330mの向陽山登山口に行き縦走開始。以下、日本人参加者7人全員の感想を交え日を追って概況を紹介する。

4月11日、登山口の國家公園管理窓口でパスポートを提示し入山届。寝袋や8日分の昼食などでザックはそれぞれ15kg以上の重さ。おいしい米飯昼食弁当を食べ、元気一杯に中央山脈南二段北上の縦走開始。

「雨天、高差650m、よく整備された道を約2.5時間で2980mの向陽小屋着。石楠花が咲いており、写真にしたら普通の人にはネパールと区別が出来ないと思われるくらい懐かしい風景だった。」(岩崎洋・記)

4月12日、小屋での朝夕の食事はポーター兼コックの高地民族の若者3人で作ってくれる。

「朝メシはオカユなのでウメボシが欲しい。6時出発、向陽山(3602m)は時間がかかるのでパス。10時、嘉明湖避難小屋で早い昼食。森林限界を過ぎ、向陽山北峰(3435m)を越えると矮小な笹原の快適な尾根歩き、時々

晴れるが玉山などの山々は一つも見えない。14時30分、三叉山(3496m)着。少し寄り道して「天使の涙、台湾一きれいといわれる嘉明湖を見下ろす。あとはひたすら下り、最後のところでポーターがこけて、捻挫か靭帯をのばしたようだ。拉庫音溪低小屋が見え安心したが、まだ溪の渡渉が残っていて小屋17時着、長い一日だった。」(川原庸照・記)

2688mの拉庫音溪小屋はひどい雨漏り状態で、敷いであるマットレスが水浸し。何とか拭いて寝るスペース確保。

「4月13日、夜半、激しい雨が小屋の屋根を叩き、雨漏りで土間に水が溜まりサンダルが浮く。5時起床。あまりの大雨にガイドの発言は前進、停滞など二転三転、わけがわからない。結局、縦走中止、今日中に嘉明湖小屋まで戻ることになる。7時出発、身体が吹き飛びそうな強風と雨アラレの中を昨日ウンザリするほど降りた登山道を登り返す。道は水が流れてゴルジュ状態。12時40分嘉明湖小屋着。屋根を叩く雨音は会話をばぼむほど激しく、断続的に豪雨が一日中続いた。」(楠田寧・記) 雨具を通すほどのアラレ混じりの強風雨、何人かは濡れて低体温症寸前の危険な状態だった。

「4月14日、嘉明湖避難小屋から向陽山登山口まで戻った。今日も雨模様だが幸いにも昨日までの風がなくホッとて出発。一人転倒、岩で頭部負傷。命に別状なくゆっくりながら行動出来、ホッとした。負傷者の荷物を軽々背負う川原さんが頼もしい。荒天で8日間縦走の夢も叶わず、玉山も見えずで個人的には残念。登山道は土留めなどがほどこされ整備が行き届いている。樹林帯でラリグラスの群生を見てうれしかった。下山後は玉温泉ホテルに泊り、4日間の汗を流した。」(神田祐子)



「4月15日、台北に12時過ぎ到着。南一段、南二段ともに悪天で縦走中止、土日の台北で突然の大人数のホテル探がしを強いられ台湾の方々はてんでこ舞いだっただとか。今晚の宿は2段ベットの2人部屋、とても狭いけど清潔。湿っぽいリュックの整理をしてから街歩き、足裏マッサージ店で疲れた足をほぐす。夕食は地下鉄に乗り中華レストランへ案内された。」(中野厚子・記)

4月16日、南二段組は台北近郊の陽明山国家公園に案内される。

「清天宮登山口スタート、ヌルヌルした石の階段が頂上まで続く。面天山(977m)に着くと、台湾ガイドの方々から暖かいコーヒーのもてなし、感謝感謝。終始雨とガスの中で今日も何も見えなかった。」(高島加代子・記)

4月17日、陽明山国家公園東側の台北最高峰七星山(1120m)登山。

「今日も相変わらずのガスと雨、登りも下りも全て石段の登山道、七星山山頂の眺望はゼロ。これで7日間連続の雨。何なんだ！きっと登山隊の中に強烈な雨男、雨女がいるに違いない。」(西嶋鍊太郎・記)

4月18日、雨天、日中、自由行動。夜、盛大な送別会。

## 登山を振り返って

せっかく中華民国山岳協会の方々が多額を費やし周到に準備された中央山脈縦走登山は台湾でもまれと言う長く続く荒天のため残念な成り行きになってしまった。ガイドたちは前進を強く主張していたが、3日目の暴風雨予報でぎりぎりになって撤退判断に変わった。もし突っ込んでいたら、その後の6日間は3000m以上の稜線のアラレ混じりの暴風雨を毎日10時間歩くことで低体温症の危険、疲労による事故や日程の遅れもあり得た。途中のエスケープルートが全く無い超ロングルートで小屋から小屋の距離は長く、その小屋も全て無人。無線連絡可能ならヘリでのピックアップも有りだが悪天では無理。今回、怪我したポーターはヘリがいつ飛ぶか分からず、無理して自力下山した。8日間、毎日10時間



の登山行動計画で予備日が1日も無い。何かあって遅れたら帰国便に乗れないこともあり得る。そんなわけで、ガイドの方々の苦渋の撤退決断は正しかったと思う。ガイドは中国語しかできず、日本人との意思疎通は香港系中国人の英語が媒介になった。下山後、車で南二段コース終点の東埔温泉から八通関古道に行こうとしたが道路が豪雨による土砂崩れで不通。台北に戻り、協会の方々の案内で陽明山国家公園の面天山、七星山登山を2日間楽しんだ。南二段を完走出来なかったことは残念だったが、全員無事そして困難な登山を共にし、互いに助けあったことで各国岳人や台湾岳人相互の交流がより深まったことを幸とした。中華民国山岳協会のみなさんの心からのおもてなしに深く感謝します。

\*

南二段参加者の平均年齢56歳、73歳のわたしが最高齢。参加を決めてから3ヶ月間、雨の日も風の日も一日も休まずトレーニングに励んだがやはり及ばずみなさんの足手まといとなりいろいろ迷惑をかけたしまった。お詫びします。

(文責 西嶋鍊太郎・石川県)

日本山岳会百十周年記念出版

## 改訂 新日本山岳誌

日本山岳会編 この10年間で「動いた」日本の4000山を、会員の脚で再調査して改訂した最新の山岳大事典。18000円

インド・ヒマラヤ 日本山岳会東海支部編 この地域の日本初の最新登山記録集。概説、概念図、写真、登山記録、登山史、文献を集約した必携の書。6000円

## ヒマラヤの東 山岳地図帳

中村保 地球最後の未踏峰の宝庫(中国深奥部)を多数の写真・地図で明らかにした世界初の詳細な山岳地図帳。10000円

606-8161 京都市左京区  
一乗寺本ノ本町15  
www.nakanishiya.co.jp/

ナカニシヤ出版

TEL.075-723-0111  
FAX.075-723-0095  
[価格は本体価格]

## 平成28年度前期海外登山奨励金選考結果

(公社)日本山岳協会では、海外登山の振興と技術の普及、向上を目的として、海外登山奨励金制度を制定し、斬新、独創的で、多大な成果の期待できる登山計画に対し、奨励金を交付しています。

今期(平成28年9月～平成29年2月出発予定の隊)は6隊の応募があり、厳正な審査の結果、以下の4隊に奨励金を交付することを決定いたしました。

パタゴニアの2隊については、技術的な困難度が高く、登攀スタイルにも思想があり、また未開性もある。ルンポ・カンリとカン・ナチュゴは、目標のピーク自体にも記録が少なく、そこを未踏の壁からアルパインスタイルで登る登攀スタイルも理想的である。4隊ともに評価でき、またどれも甲乙つけがたいため、それぞれに同等の20万円の交付とします。

### 2017パタゴニア ビックウォールフリー遠征隊

期間：2017年1月6日～2月28日

隊員：長門敬明、佐藤裕介

内容：南米パタゴニアにおいて、フリークライミングにこだわった新ルート開拓、また既成エイドルートのフリー化を目指す。フィッツロイ東壁ロイヤルフラッシュのオールフリー化、ピエールジョルジオ北西壁に新ルート開拓など。



ピエールジョルジオ北西壁

交付額：20万円

### Giri Giri Boys Patagonia Expedition 2017

期間：2017年1月4日～2月28日

隊員：横山勝丘、増本亮

内容：パタゴニア・フィッツロイ山群にて、幾つものピークを繋げて登るトラバース(縦走)を目指す。フィッツトラバース(南から北へ、未踏)やポローニトラバース(未踏)など。登攀距離も長く、技術的困難度も高い。



フィッツロイ、この稜線の縦走

交付額：20万円

### 日本ルンポ・カンリ登山隊2016

期間：2016年9月7日～10月10日

隊員：平出和也、中島健郎

内容：まだ数隊の入山記録しかない中国・ルンポ・カンリ(7,095m)を、未踏の北壁から登り、北東稜を下降する。頂上へとダイレクトに抜けるルンゼをルートにとり、アルパインスタイルで登る。



ルンポ・カンリ北壁、中央のルンゼを登る

交付額：20万円

### Kang Nachugo Expedition 2016

期間：2016年9月下旬～11月初旬

隊員：鳴海玄希、山本大貴

内容：ネパール・ロールワリン地方のカン・ナチュゴ(6,735m)主峰は、2008年の西稜からの初登以来、登られていないと思われる。高度差1500mに及ぶ未踏の東壁からアルパインスタイルで登る。



カン・ナチュゴ東面

交付額：20万円

## 大阪府山岳連盟

### 創立70周年・一般社団法人設立記念式典

創立70周年を迎え、同時に懸案であった法人への移行が年次総会で決議され、その直後に一般社団法人大阪府山岳連盟総会において設立の日の目をみましたことをご報告します。

式典は70周年と法人設立を併せ、去る5月28日にヒルトン大阪にて関係者約120人のご臨席を賜り挙行了しました。式典では中村久住会長より出席者へのお礼と発足当時の諸先輩の貢献が多大であったこと、これを継承し弛まぬ努力を重ねられた方々への感謝が語られ、法人としてより開かれた組織を目指すことを表明しました。

ご来賓の挨拶は、千早赤坂村松本昌親村長から「ピンコロ推奨のお話」を頂戴し、大阪府環境農林水産部田中猛参事、大阪体育協会本田事務局長、近畿地区山岳連盟國松嘉伸会長からそれぞれご祝辞を賜りました。

表彰は70年在籍4団体、貢献11団体及び個人9名に感謝状と金一封を贈呈致しました。

ご祝辞の紹介、ご来賓の方々のスピーチ等々歓談の続く中で会場に一番の華を添えられたのは(株)モンベル辰野勇代表取締役会長の横笛によるオリジナル曲の披露でした。会場の参会者全員が幻想的な雰囲気に入れられ、聴き惚れていました。

3時間におよぶ式典ではありましたが最後に飛田専務理事より、一般社団法人は産声を上げただけ、整備されなければならない課題は山積しているが、信頼に応えられるよう努めます。と、決意を述べ式典を閉会しました。



平成28年度(28年7月)  
常務理事会報告

**日時** 平成28年7月14日(木)  
18時～21時20分

**場所** 岸記念体育会館・4階特別室  
**出席者** 八木原会長、尾形・國松・高橋・  
亀山各副会長、小野寺、西内、森下、  
京オ、水島、瀧本、仙石、中瀬各常務理  
事、中島監事(14名中14名出席)

## 1. 議事

- (1)平成27年度6月常務理事会議事録の承認について(事前送付済)  
事前送付しており、異議なく承認。
- (2)第37回登山医学学術集会共催依頼と税額控除代行依頼について  
申請書の一部訂正で承認。
- (3)平成28年度専門委員会常任委員の承認について  
一部追加訂正で承認。
- (4)平成27年度日本山岳協会監査所見に対する今後の対応について  
指摘事項を修正して提出することで承認。
- (5)平成28年度「少年少女登山教室」交付申請の承認について  
6月までの申請13件が承認。
- (6)平成28年度山岳共済会「安全登山推進事業」交付申請の承認について  
6月までの申請17件が承認。
- (7)アジア選手権の派遣選手及び予算承認について  
選手16名とスタッフ4名の派遣が承認された。予算については滞在費用等が明確になった後で、補正することで承認。
- (8)世界選手権代表選手の承認について  
ボルダリング選手10名、パラクライミング選手4名の派遣が承認された。
- (9)ルートセッター、審判員規程改定について  
理事会に諮ることで承認された。
- (10)28年度山岳レスキュー講習会(東部地区)について  
開催要項の説明があり、HPのアップと全国配信が承認された。
- (11)提案書・ICSに基づく雪崩捜索救助訓練コースについて  
JANからの提案で、山岳団体で捜索の仕方を考えようとのこと。指導者の

講習会にカナダから講師が来日。日山協も参加して費用は遭対委員会の予算で賄う、ことで承認。

- (12)ココヘリの推薦依頼について  
日山協も推薦することで、承認。
- (13)平成28年度雪崩災害防止功労者の推薦について  
北海道関係者に確認することで承認。
- (14)パラクライミング世界選手権小林幸一郎氏同行取材撮影の件について  
提案通り承認。
- (15)会長諮問委員会の答申対応について  
常務理事12名のアンケート集約結果とそれをまとめた対応策(案)について説明があり、それについて討議された。8月常務理事会で纏めることで承認。

## 2. 報告事項

- (1)平成28年度6月度会計月次報告について
- (2)JOCジュニアオリンピックカップ参加申込についての経過報告
- (3)10月常務理事会の変更について  
10/5に変更することで了承。
- (4)JOC国際総合競技大会、公式服装、FISUについての報告
- (5)BWC加須大会の報告及びアジアユース選手権(テヘラン)派遣についての報告。
- (6)東京五輪関係の記者発表会及び「山の日の歌」発表の報告があった。

## 3. 指導員・審判員 検定結果報告

上級山岳指導員: 桜井武彦、中野邦彦、阿部和夫(以上3名東京)  
以上3名を承認。

## 4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)広島岳連辺境文化セミナー後援名義について(交付済)
- (2)富山岳連山の日後援名義について(交付済)
- (3)第17回ライチョウ会議後援名義について(交付済)
- (4)HAT-J国民の祝日「山の日」施行初年記念植樹名義後援依頼(未交付)  
以上4件、異議なく承認された。

## 5. 専門委員会動静: 6月17日～7月10日

### 【報告】

- (1)国際委員会  
6月21日(火) 出席者7名、委任7名  
(ア)報告事項  
①IRAN Youth Summer Camp 2016 Mt.SABALAN(4,811m) 8/23-30に

ついて

②平成28年度前期 海外登山奨励金の応募状況について

(イ)協議事項

①総会および第55回海登研の報告  
参加者62名(講師6、スタッフ12、京都スタッフ8、有料参加者36)

②国内外に向けてのHP案について  
これまでの議論を整理し、次回に澤田がまとめて再提案する。

③第3回海外登山懇談会について  
(11/17(木) 18:00～オリセン)

### (2)競技部運営委員会議

6月16日(木) 出席15名

(ア)公認、認定等競技会の公募規程検討

(イ)秋田県岳連からの国体参加への質問・視覚障害者(3級)へのワイヤレス補聴器使用の可否について

(ウ)登録選手規程(案)について

(エ)第71回国体山岳競技実施要領(案)について

(オ)「2017パラクライミング選手権」開催について(提案)

(カ)JOC Jr.大会エントリー対応について

(キ)日体協第3期実施競技選定に係る競技団体書面調査報告について

(ク)第72回国体抽選会希望日、第74回国体会期について

### (3)自然保護委員会

6月19日(日) 出席14名 欠席1名

(ア)山岳団体自然環境連絡会 5月29日(於: 労山)報告

(イ)第40回自然保護委員総会について

(ウ)情報交換・連絡事項

①自然に親しむ運動への協力(環境省)

②NPO法人山のECHOの解散

③三つ峠清掃登山(9/25)西桂町からの参加要請

### (4)指導委員会

6月6日(月) 出席14名 欠席4名

(ア)SCコーチ養成講習会について

6/24, 25, 26机上講習(都岳連)

7/16, 17, 18実技講習

(イ)指導委員総会について

6/11(土)～12(日) 東京海員会館

・研修会テーマ: 山のグレーディングについて(村越真)

(ウ)スポーツ指導者表彰候補者: 小山(宮城)、古屋(山梨)、山根(山口)

(エ)SC主任検定員と上級指導員養成について

(オ)SC指導員養成講習会・中国ブロック合同開催について

(カ)夏山リーダー検討会について

- 5/16(月) 19:00 ~ 都岳連会議室
- (※)トップの確保よりセルフレスキューまでの工程について
- (ク)懸垂下降の工程について
- (ケ)ハーネスの止め結びについて
- (5)ジュニア普及委員会  
6月13日(月) 出席 5名 委任2名
- (ア)立山ジュニア登山教室2016の準備状況について
- (6)財政委員会  
6月14日(火) 出席5名
- (ア)予算管理規程(案)の検討
- (イ)契約審査会規程(案)の検討
- (7)指導委員会  
7月4日(月) 出席者14名
- (ア)6月常任委員会議事録確認
- (イ)6月常務理事会報告

- (ウ)会長諮問委員会答申について
- (ニ)指導・遭対合同会議報告
- (ホ)指導委員総会報告
- (カ)指導員認定申請について
- 上級指導員山岳: 桜井武彦、中野邦彦、阿部和夫(以上、東京)の合格を承認
- (キ)S C コーチ養成講習会について
- (ク)S C 指導員養成講習会・中国ブロック合同開催について
- (ケ)夏山リーダー検討会について
- (ニ)指導・遭対合同研修会について
- (イ)登山技術研修会(長崎)について

**7. その他の重要事項: 6月21日~7月13日【報告】**

- (1)日体協競技団体評議員連合会幹事会  
6月21日(火) 於: 岸記念体育会館

- 尾形副会長
- (2)スポーツ団体の経営強化会合  
6月21日(火) 於: 岸記念体育会館  
小野寺事務局長
- (3)スポーツ安全協会評議員会  
6月23日(木) 於: 霞が関35 F 東海大学校友館 尾形副会長
- (4)J O C 評議員会 6月23日(木)  
於: 味の素ナショナルトレセン  
八木原会長
- (5)J O C スポーツ表彰式 6月23日(木)  
於: 味の素ナショナルトレセン  
八木原会長、尾形副会長
- (6)日本体育協会評議員会  
6月24日(金) 於: 品川プリンスホテル  
メインタワー 30階 尾形副会長
- (7)福井県山岳連盟創立60周年記念講演会  
6月26日(日) 於: 福井ハピリン3 F 多目的ホール 八木原会長
- (8)平成28年度遭難対策委員総会  
6月25日(土)~26日(日)  
於: 埼玉県民活動総合センター  
亀山副会長、西内常務理事
- (9)財務委員会 6月29日(水)  
於: 岸記念体育会館 内藤、中島監事、尾形副会長、小野寺事務局長
- (10)リオ五輪結団式・壮行会 7月3日(日)  
於: 代々木第2. 第1体育館  
八木原会長
- (11)日体協競技団体評議員連合会総会  
7月5日(火) 於: 岸記念体育会館  
尾形副会長
- (12)全国山岳遭難対策協議会 7月8日(金)  
於: 国立オリンピック記念青少年総合センター 八木原会長、尾形副会長、西内登山部長、中川事務局長
- (13)マナスル初登頂60周年記念行事  
7月10日(日) 於: J I C A 市ヶ谷  
八木原会長
- (14)山岳4団体懇談会 7月12日(火)  
於: 嘉賓 八木原会長、尾形・亀山副会長、小野寺事務局長
- (15)第2回J O C - N F 強化関係連絡会議  
7月13日(水)  
於: 岸記念体育会館101~103号室  
小野寺事務局長、中川事務局長

**寄贈図書**

寄贈本	ナカニシヤ出版	「大阪の山歩き100街から気軽に楽しむ山歩きガイド」清水 満 著	
	(株)山と溪谷社	「沢登り銘溪62選 東北・上信越・日本アルプス」豊野 則夫 著	
	(株)山と溪谷社	「登山白書2016」	
	(株)山と溪谷社	「穂高の月」井上 靖 著	
	mountainkorea.com	「Man&mountain」2016 JULY No.321	
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.830 2016 August	
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」2016.8 No.976	
	福岡山の会	「せふり」平成28年7月 No.375	
	日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」2016 SUMMER No.477	
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」平成28年6月21日第418号	
雑誌	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へアルク」2016年8.9月 569号	
	日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」2016.June Vol.53	
	大阪府立体育館	「季刊 府立体育館」No.117	
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第589号	
	中華民国山岳協會	「中華山岳」《雙月刊》253	
	FEEC	「VERTEX」266	
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」2016.7 No.459	
	Korean Alpine Federation	「KOREAN MOUNTAINEERING ANNUAL」2016	
	(独)日本スポーツ振興センター	「国立スポーツ科学センター年報2015」	
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBCnews」第536号	
	大阪府山岳連盟	「山岳おおさか」No.209・別冊	
	(公財)尾瀬保護財団	「はるかな尾瀬」2016.6 vol.30	
	(公社)国土緑化推進機構	「ぐりーん・もあ」第74号(夏号)	
	中華民国健康登山会	「中華登山」2016.7 No.177	
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」vol.26	
	La rivista del Club alpino italiano	「M o n t a g n e 360」2016.7	
	(公財)日本体育協会	「フェアプレイニュース/スポーツニュース」7月8日号	
	明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」No.181	
	会報	白河山岳会	「一里瀧」40号
		(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.321
日本勤労者山岳連盟		「登山時報」No.498	
Korean Alpine Federation		「大山聯」Vol.211 2016 July	
(株)読売ライフ		「読売Life」第520号 2016.8	
中国登山協会		「山野 CHINA OUTDOOR」2016 07 総215期	
(株)ENO		「りぶる」No.413 8月号	
(公社)日本山岳会		「山」No.854	
(公財)全国高等学校体育連盟		「全国高体連ジャーナル」Vol.31	
HAT-J		「HAT-J NEWS」No.102	
日本山岳写真協会		「日本山岳写真協会ニュース」7月号第434号	
東京野歩路会		「山嶺」No.1037	
東京都山岳連盟		「とがくれん通信」2016年1.2合併号	
日本山岳遺産基金		「日本山岳遺産基金ニュース」No.11	
(公財)京都府体育協会		「京都府体協時報」第122号	
おいらく山岳会		「山行手帖」No.680 '16.8	
日本オリンピックアカデミー	「JOA Times」第39号		

**編集後記**

スポーツクライミング競技が東京2020オリンピックに正式採用された。本協会としては大変光栄なことであり、画期的なことだ。この波を受けて協会の発展が飛躍できるかどうかは会員の意思力が課題である。帆船の如くベクトルを合わせて推進しましょう。(広報担当 水島彰治)

**登山月報 第569号**

定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)  
 発行日 平成28年8月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
 岸記念体育会館内  
 公益社団法人日本山岳協会  
 電話 03-3481-2396  
 F A X 03-3481-2395

**NPO法人 北丹沢山岳センター**

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)  
 神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276  
 和田峠「時の茶屋」TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

**NPO法人 北丹沢山岳センター**

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会
- 南高尾城山陣馬サンセットトレイルレース実行委員会
- 峰山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

## 熊本地震のお見舞いと義援募金へのご協力について(お願い)

去る4月14日の前震から始まった熊本県を中心とした群発地震で、甚大な被害を蒙られた被災者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

私たち全国の山仲間は、皆様の安全を祈念しつつ、この困難な状況を一刻も早く改善する復興活動に出来る限りの協力をしたいと考えております。

本協会では、被災地の復興と被災者の救援のための義援金を呼びかけることに致しました。是非、皆様のご協力をお願いします。募金は個人、団体を問いません。

公益社団法人 日本山岳協会 会長 八木原 罔明

### 【義援募金送金方法】

- ①銀行振込み みずほ銀行 渋谷支店  
口座番号 普通預金 3382501  
口座名 シャ)ニホンサンガクキョウカイ
- ②郵便振替 口座記号番号 00110-5-546693  
加入者名 公益社団法人 日本山岳協会  
※通信欄に「地震義援募金」と記入して下さい。
- ③現金書留 「(公社)日本山岳協会」宛  
〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1  
岸記念体育会館内 電話：03-3481-2396

※お名前、金額などを日本山岳協会の機関誌『登山月報』に掲載しますので、匿名を希望される方は、「匿名希望」と明記して下さい。

※5,000円以上のお振込の方で、ご希望の方には税額控除証明書を発行致します。通信欄に「税額控除希望」と記入して下さい。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

わたしの  
ゴール  
キーパー。

GK

 7ルマの保険  すまいの保険  先 竹カの保険

[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)

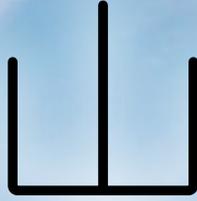
JMA

守ります。美しい日本の山。

祝

8月11日

(2016年より)



国民の祝日

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

<http://sangakukyousai.com>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL:03-5958-3396 FAX:03-5958-3397

E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月～金 10:00～17:00(祝日除く)

Webからも申込みます